

令和6年度 障害児・者のスポーツライフに関する調査研究

<目的>

東京オリンピック・パラリンピック競技大会により、スポーツを通じた共生社会の実現に向けた機運が醸成されたが、成人一般に比べて障害者のスポーツ実施状況が低調であることから、障害者特有のスポーツの実施に係る障壁の解消と、スポーツ施策の実施体制上の課題の解消を図ることも重要である。また、障害のない方で障害者スポーツを体験したことのある方の割合は低く、障害のある方とない方がともにスポーツをする、ユニバーサル、インクルーシブなスポーツ環境を整備することも必要である。

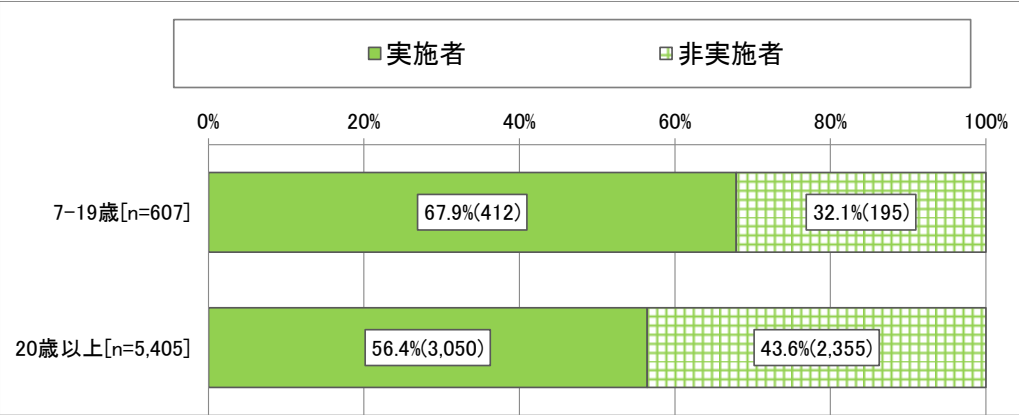
以上を踏まえ、本事業は、障害者が生涯にわたってスポーツを実施するための基盤を整備する観点から、身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備等を図ることを目的として実施する。

<調査概要>

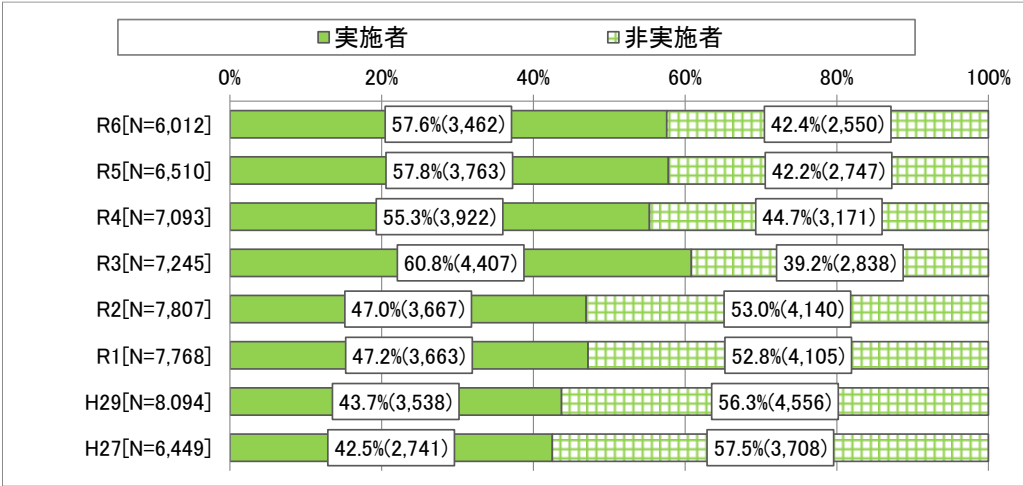
全国の7歳以上の障害者または7歳以上の障害者と同居している家族を対象として、障害に関する基本情報、運動・スポーツの実施状況（実施種目、頻度、目的等）、運動・スポーツ実施における障壁、今後行いたいと思う運動・スポーツ、スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況、過去1年間のスポーツ観戦の実態、スポーツ観戦における障壁等を調査した。

2. 調査結果 ①運動・スポーツの実施率

- アンケートの結果、過去1年間に何らかの運動・スポーツを行った割合をみると、7～19歳は67.9%、20歳以上は56.4%であった。
- 令和5年度調査と比較すると、実施者の割合は横ばいで、令和3年度以降半数以上の割合を維持している。



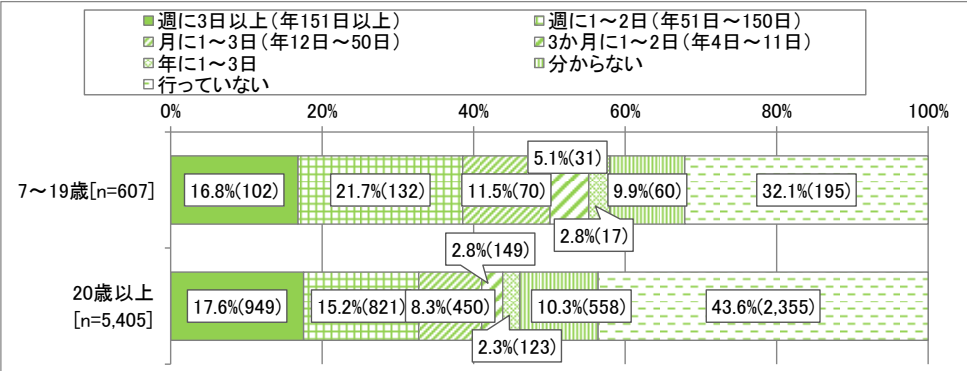
図表1 過去1年間の運動・スポーツの実施の有無
(7～19歳・20歳以上別)



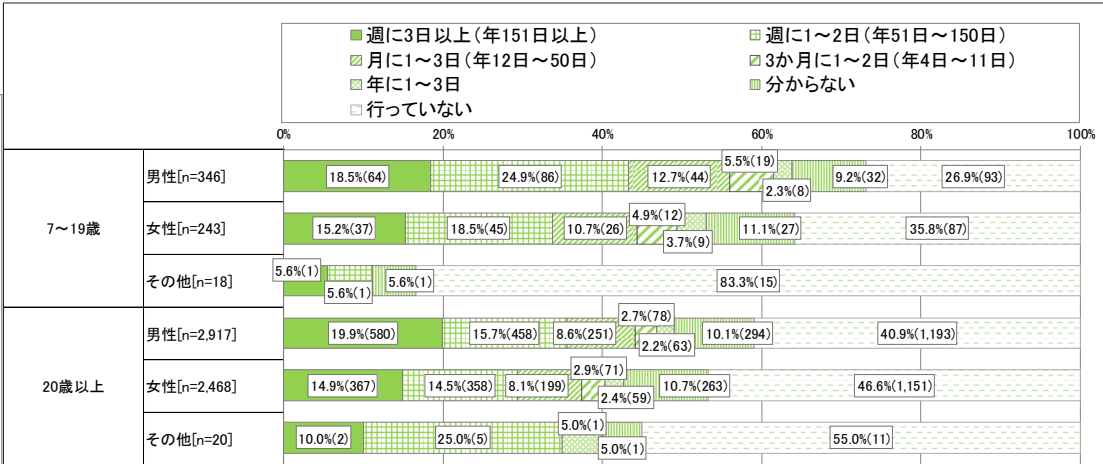
図表2 過去1年間の運動・スポーツの実施の有無
(過去との比較)

2. 調査結果 ②運動・スポーツを行った日数

- 過去1年間に運動・スポーツを行った日数を7～19歳、20歳以上別にみると、7～19歳では週1日以上の実施率は38.5%、20歳以上は32.8%となっている令和5年度と比較すると7～19歳は34.4%から約4ポイント増加、20歳以上は32.8%と横ばいとなっていた。
- 男女別では週1日以上行った者が7～19歳の男性では43.4%と約4割、女性では33.7%と約3割であった。20歳以上の男性では35.6%、女性では29.4%となっていた。



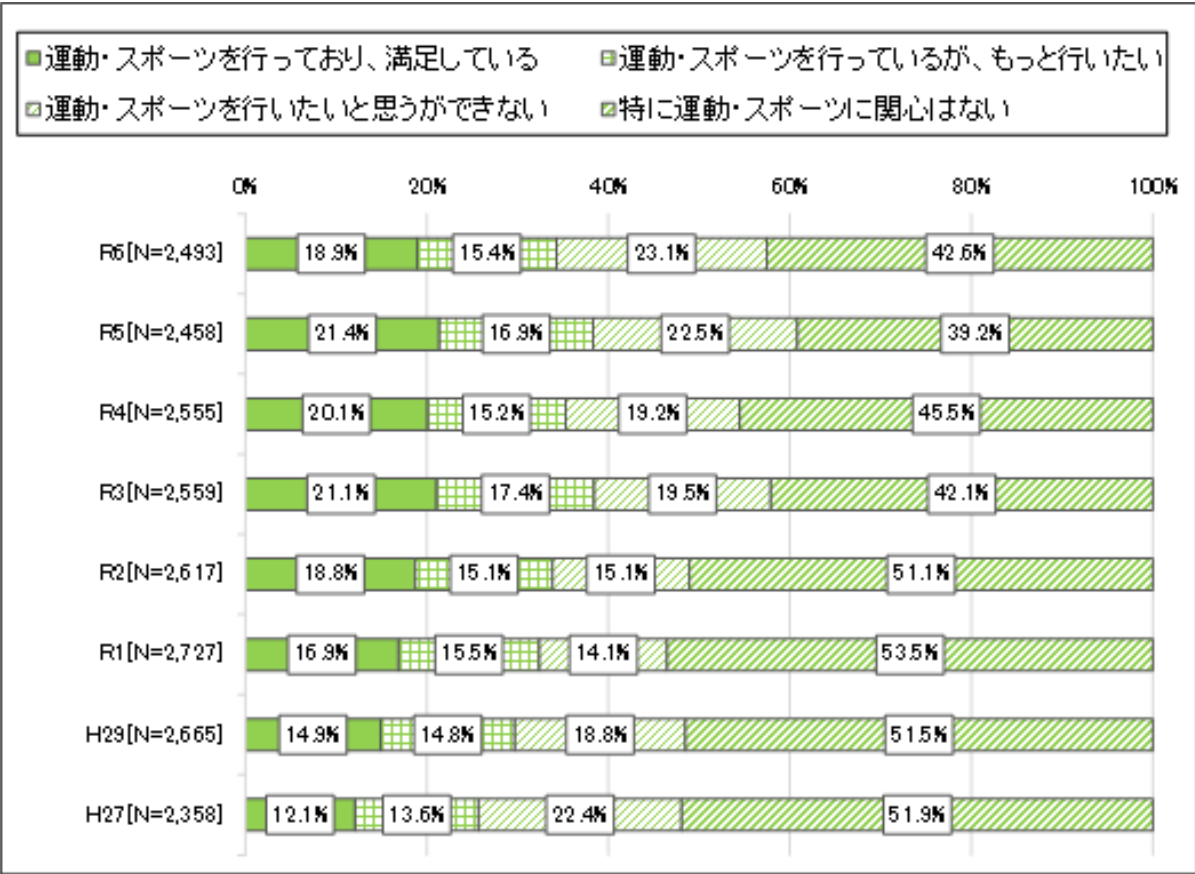
図表3 1年間に運動・スポーツを行った日数
(7～19歳／20歳以上別)



図表4 1年間に運動・スポーツを行った日数
(7～19歳・20歳以上別／性別)

2. 調査結果 ③現在の運動・スポーツへの取組について

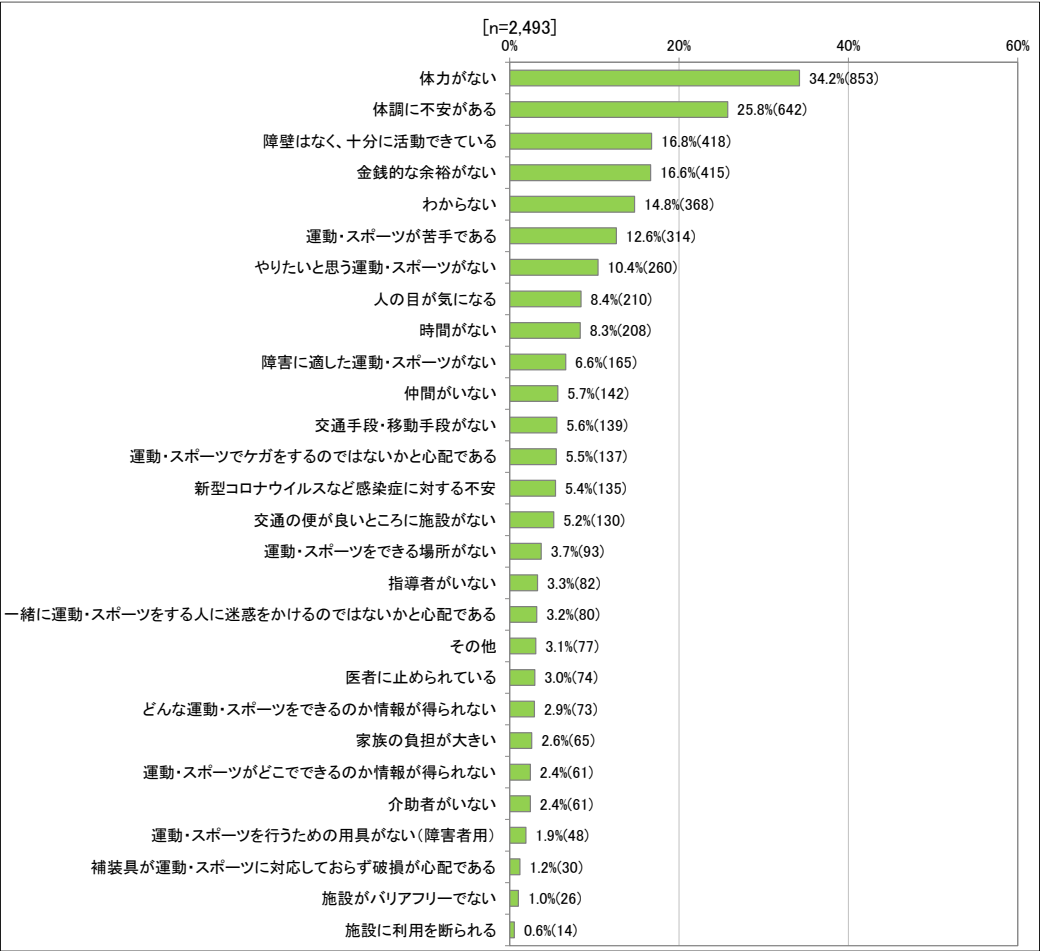
■現在の運動・スポーツへの取組については、「運動・スポーツを行っており、満足している」と回答した割合は18.9%であった。「特に運動・スポーツに関心はない(42.6%)」の割合が最も高く、「運動・スポーツを行いたいと思うができない」が23.1%、「運動・スポーツを行っているが、もっと行いたい」が15.4%であった。



図表5 現在の運動・スポーツへの取組について

2. 調査結果 ④運動・スポーツの実施の障壁

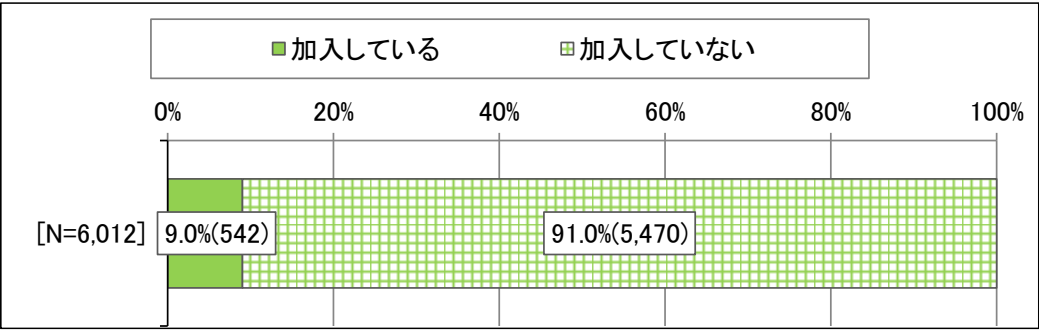
■運動・スポーツの実施において障壁となっているものについてみると、「体力がない(34.2%)」がトップとなっており、「体調に不安がある(25.8%)」「障壁はなく、十分に活動できている(16.8%)」と続いた。



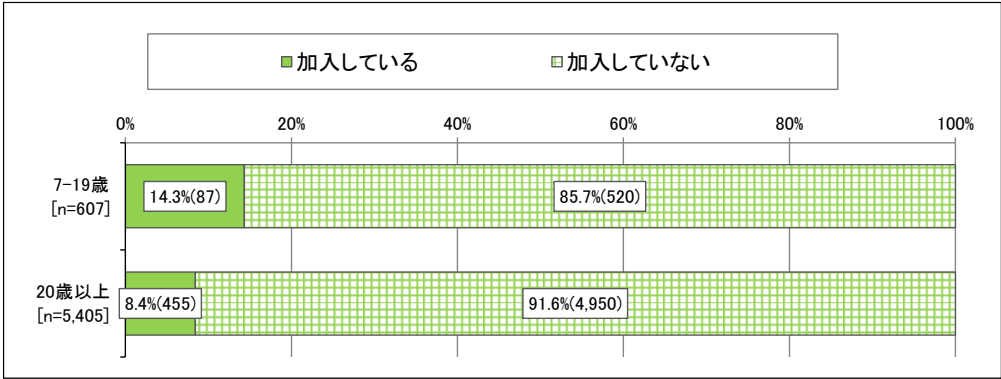
図表6 運動・スポーツの実施の障壁

2. 調査結果 ⑤スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況

- スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況では、全体の9.0%が「加入している」と回答していた。
- 7～19歳、20歳以上別でみると、7～19歳で14.3%、20歳以上で8.4%という結果となった。



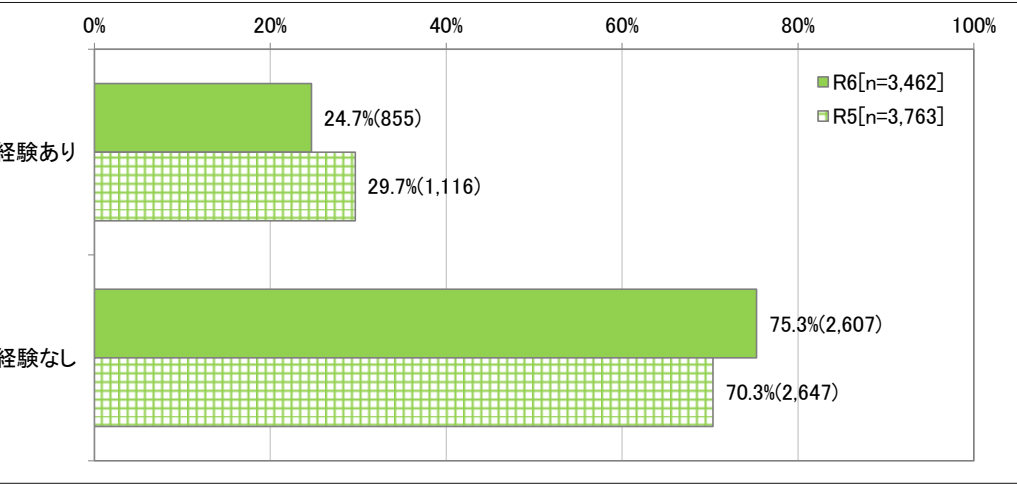
図表7 スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況



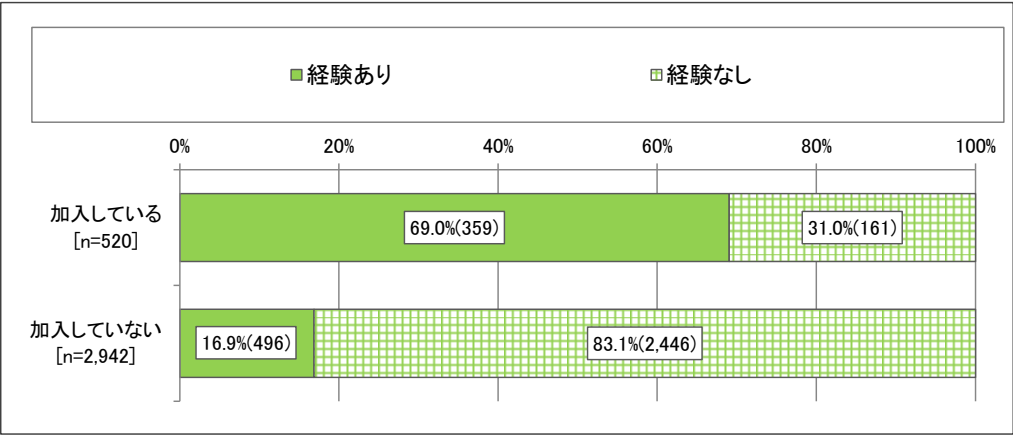
図表8 スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況
(7～19歳、20歳以上別)

2. 調査結果 ⑥障害のない人と一緒に行う運動・スポーツの経験

- 過去1年間で障害のない人と一緒に運動・スポーツを実施した経験についてみると、実施したことがある「経験あり」の割合は24.7%であった。
- スポーツ加入状況別でみると、「経験あり」と回答した人の69.0%がスポーツクラブに加入していた。



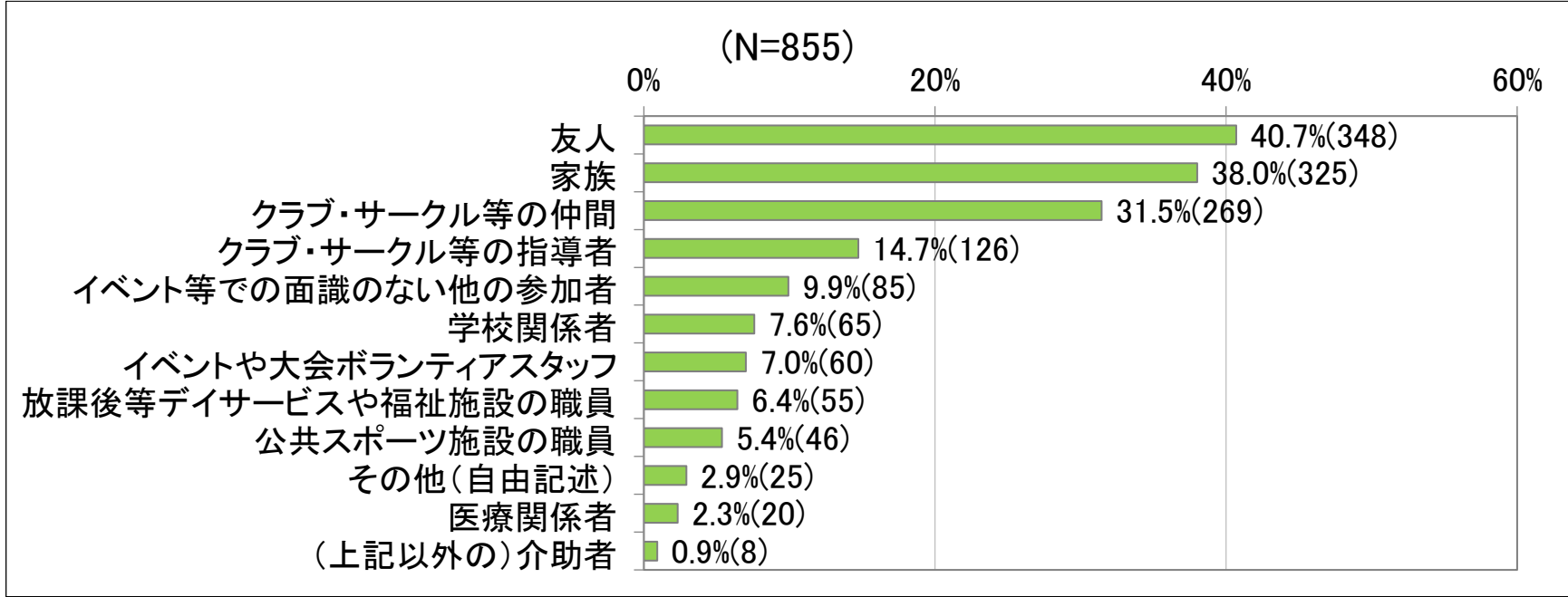
図表9 障害のない人との運動・スポーツの経験の有無



図表10 障害のない人との運動・スポーツの経験の有無
(スポーツクラブ加入状況別)

2. 調査結果 ⑦一緒に運動・スポーツをした障害のない人

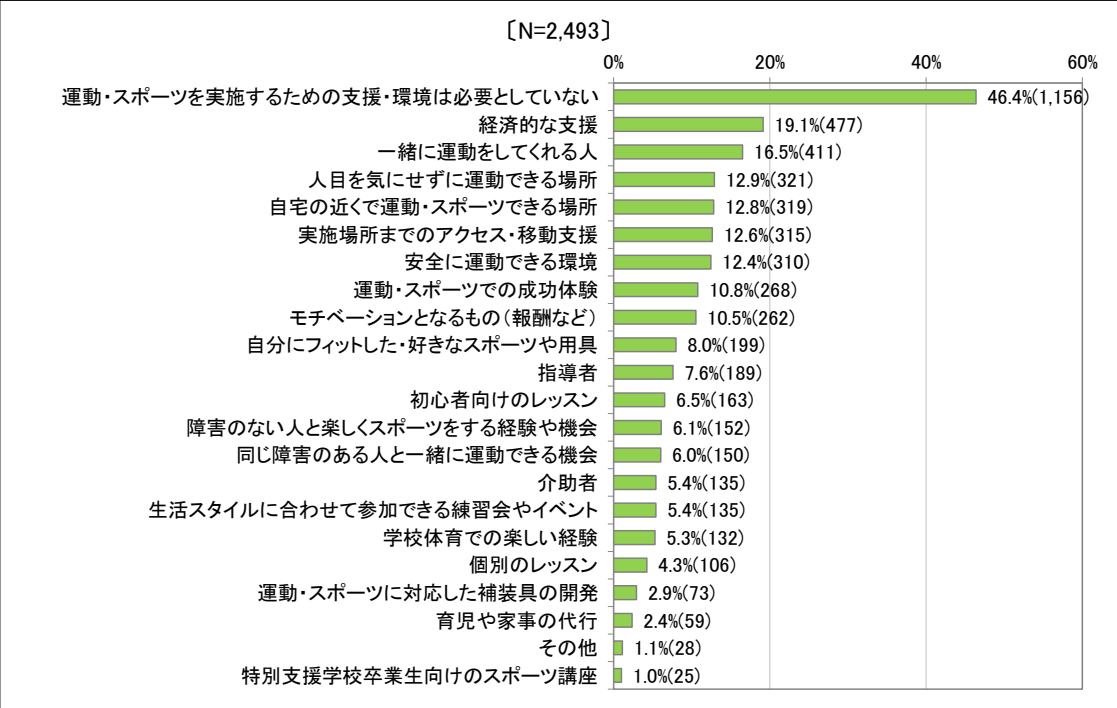
■一緒に運動・スポーツを実施した障害のない人についてみると、「友人(40.7%)」「家族(38.0%)」の割合が高い。続いて、「クラブ・サークル等の仲間」(31.5%)「クラブ・サークル等の指導者(14.7%)」となっていた。



図表11 一緒に運動・スポーツをした障害のない人

2. 調査結果 ⑧運動・スポーツをするために必要な支援・環境・経験

- 運動・スポーツをするために必要な支援・環境・経験については、「運動・スポーツを実施するための支援・環境を必要としていない(46.4%)」という回答が最も多かった。
- 必要としている支援・環境・経験については、順に「経済的な支援(19.1%)」、「一緒に運動をしてくれる人(16.5%)」、「人目を気にせずに運動できる場所(12.9%)」、「自宅の近くで運動・スポーツできる場所(12.8%)」、「実施場所までのアクセス・移動支援(12.6%)」、「安全に運動できる環境(12.4%)」、「運動・スポーツでの成功体験(10.8%)」、「モチベーションとなるもの(報酬など)(10.5%)」、「自分にフィットした・好きなスポーツや用具(8.0%)」、「指導者(7.6%)」、「初心者向けのレッスン(6.5%)」、「障害のない人と楽しくスポーツをする経験や機会(6.1%)」、「同じ障害のある人と一緒に運動できる機会(6.0%)」、「介助者(5.4%)」、「生活スタイルに合わせて参加できる練習会やイベント(5.4%)」、「学校体育での楽しい経験(5.3%)」、「個別のレッスン(4.3%)」、「運動・スポーツに対応した補装具の開発(2.9%)」、「育児や家事の代行(2.4%)」、「その他(1.1%)」、「特別支援学校卒業生向けのスポーツ講座(1.0%)」となっていた。



図表12 運動・スポーツを実施することにあたって必要とする支援・環境・経験

2. 調査結果 ⑨その他

その他の主な調査結果

過去1年間に実施した運動・スポーツの上位種目は、「ウォーキング」「散歩（ぶらぶら歩き）」

- 過去1年間に運動・スポーツを実施した人が行った種目は、令和5年度と同様に全体で「ウォーキング」「散歩（ぶらぶら歩き）」の割合が高い。

運動・スポーツを始めたきっかけは「医師に奨められた」「家族に奨められた」

- 障害発生後に運動・スポーツを始めたきっかけは、「特に理由はない・なんとなく」が4割強を占め、次いで「医師に奨められた」「家族に奨められた」の順に割合が高い。

運動・スポーツを行う主な目的は、「健康の維持・増進のため」

- 運動・スポーツを実施する主な目的については、「健康の維持・増進のため」が最も多く、次いで「気分転換・ストレス解消のため」の割合が高い。

運動・スポーツをやってよかったことは「ストレスが解消される」

- 運動・スポーツをやってよかったことは、「ストレスが解消される」「外出が増えた」「体力・身体的機能が向上した」の割合が高い。

運動・スポーツがもたらすと考えられるものは、「健康・体力の保持増進」

- 運動・スポーツが何をもたらすかについては、「健康・体力の保持増進」が最も高い。